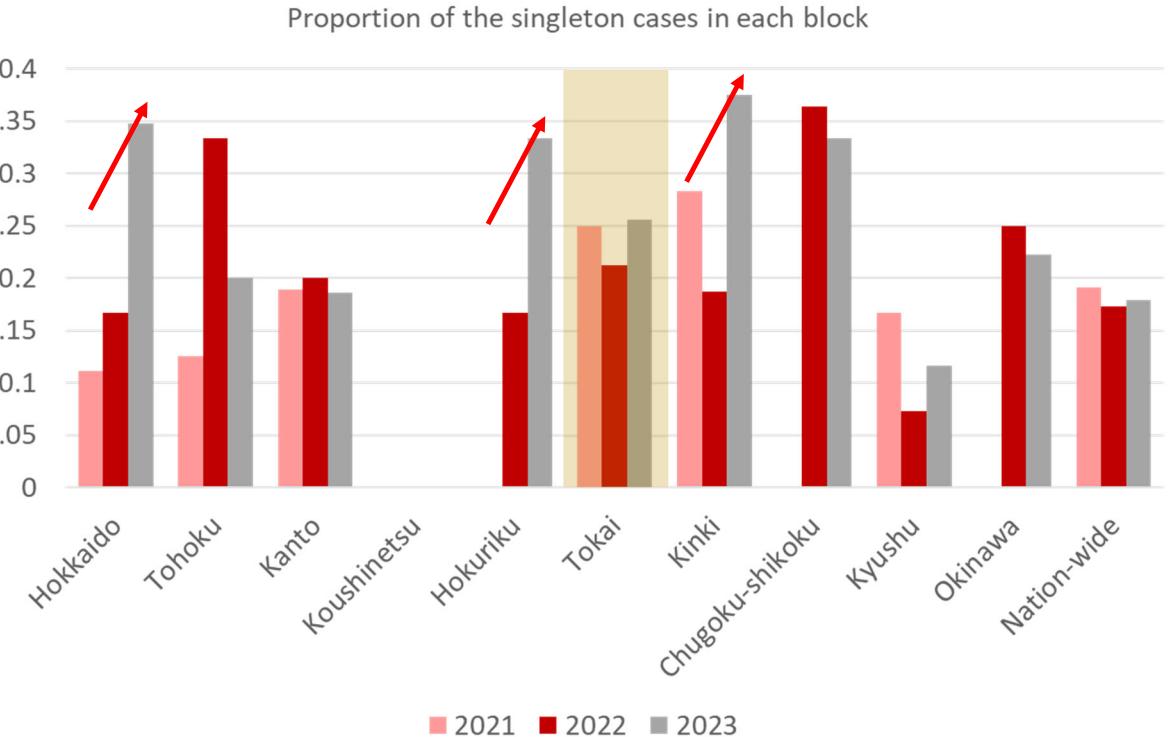


図17: シングルトン例の動向



シングルトン例は、すでに伝播を始めているが検出が遅れている新たなlineage=cryptic transmissionの最初の検出例である可能性がある

- ・その比率が高いほど、隠された(検査の遅れ)感染集団を内容している?

2023年に、サブタイプBとCRF01_AEの両方のシングルトン例が増加した地域は、北海道・北陸・近畿であった

- ・検査数は減少していることから、むしろ主要な感染集団しかとらえられていないのかも?

東海地方は、過去3年20-25%でほぼ一定だが、全国平均よりやや高めである

- ・今後、これらの症例が新たなdTCを形成するかどうか、注視が必要